

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500055		
法人名	株式会社 福伸		
事業所名	グループホーム もたい		
所在地	奥州市前沢区生母字中道3番地2		
自己評価作成日	平成28年12月14日	評価結果市町村受理日	平成29年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kari=true&lgvosvoQd=0391500055-00&PrOfQd=03&VerSiOnQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1
訪問調査日	平成29年1月16日(月)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○理念である「やさしいあいづち、こぼれる笑顔、感謝の言葉」を常に職員一同心に秘め心の声を聴き対応している。</p> <p>○笑いがある職場</p> <p>○デイサービスと繋がっている為お互い協力体制はとれている。</p> <p>○外部研修、内部研修とも力を入れ、情報の共有、質の向上に努めている。</p> <p>○1日1回利用者様の笑顔が見れる様に会話をし職員も1日終われる様にしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の周辺は、田畑、畜舎、河川に囲まれた自然環境の優れた地に立地し、同一敷地内のデイサービスや法人の関連施設の特別養護老人ホームなどとの連携のとれた介護体制のもとに、地域の幼稚園、小学校やボランティア団体との交流を通じて、地域に根ざしたグループホームの運営に取り組んでいる。また、利用者と職員、職員間のコミュニケーションを大切に、気楽に話せる雰囲気を醸成し、利用者の意向に沿った利用者本意のサービスの提供を行っている。さらに、職員の提案や家族の意見、要望を取り上げ、利用者へのサービスの向上と業務改善に取り組むほか、職員の希望する研修会への派遣など、職員の資質の向上と勤労意欲の高まりに努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同常に胸に秘め日々介護に従事している。	管理者の異動に伴い、昨年度に職員間で話し合い、分かりやすく身近なものとした。理念は、施設内に掲示するとともに、理念を具体化するための運営方針を定め、日々の生活の中で実践し、その効果を職員会議で点検し、今後のより良いサービスの提供に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な保育園、小学校継続は勿論今年は地域にある保育園にもお願いし実現出来た。	地域の2箇所の幼稚園との交流や、小学校の相撲の見学、地域のボランティアによる演芸などを受け入れたほか、事業所主催のいもの子会の開催などにより、地域住民や利用者の家族との交流を行い、地域に根ざしたグループホームを目指し、取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流が継続されている所には、理解が得られているが、地域の方々に広報等配りが出来なかった。(ホーム内の行事等)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を報告、意見、提案を頂いたが一部サービス提供にいたらなかった。	運営推進会議の提案を受け、家族や地域を対象とした広報紙の作成に取り組んでおり、今後、家族の同意を得て、グループホームの現状や事業計画を周知し、より地域に根ざした運営をすることとしている。また、運営推進会議の内容を職員間で共有し、日々の業務の改善と利用者へのサービスの向上に努めている。	運営推進会議の委員のほか、事業所の行事計画に対応した消防署員や警察官などのオブザーバーによる助言や提言を受けるとともに、委員から提案のあった広報紙を取りまとめ、地域の世帯や役員、事業所に配布し、より一層地域に根ざした運営に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査等の依頼に応じ対応している。支所に行き助言指導を受けている。	市の担当者の運営推進会議への出席や、市主催の会議、研修会に職員を派遣し、情報の収集と知識の習得に努めている。地域包括センターに出向き、介護認定の変更や関連法令の改正に伴う指導を得ている。また、市の予防接種の案内にも対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ADLの低下の為センサーをよぎなくされ家族了解の元使用し、時に他の方が優先な場合等職員で話し合い的確に対応している。	市主催の研修会や、グループホーム協会の勉強会に職員を派遣し、その後派遣職員を講師とする復命研修の実施や、法人のサービス向上委員会での説明会を通じて職員の知識の向上に努めている。特に、スピーチロックについては、職員へのアンケートを実施し、その結果と提案等を日常の対応に活かしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、ホーム内(デイサービス職員)等で話し合い防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際利用者の1人が、成年後見人を利用する事になり職員は理解、把握が出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初に施設内を必ず見学して頂き、申し込みの時点でおおまかな説明をし契約時に更に詳しく説明、疑問、不安に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の状態は1ヶ月に1回の手紙にて報告し不安解消し家族に安心感を与えられるように取り組んでいる。	毎月の請求書発送の際に、居室担当者の手書きによる利用者の状況を家族に知らせるとともに、訪問時や電話等を通じて、家族の要望の把握に努めている。また、利用者からは、日々の生活の中で、仕草や話しなどにより意向を把握し、利用者の意向に沿ったサービスを提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議で話し合われた事を職員で周知し更に意見、提案に応じている。	法人の施設長による、毎月開催の業務会議の内容報告や職員会議を通じて、職員の意見、提案を受けて、食事内容の充実、排泄用品の改善などを行なうほか、洗濯機などの備品の更新を実現化している。連絡ノートにより、利用者へのサービスの向上に努めるほか、産休や体調不良、行事などの休暇にも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休に出来るだけ応じ更に急の勤務変更にもお互い思いやり対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交換研修等を行い、情報共有し日常業務に繁栄させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック定例会に参加し交流を持ちそこで得たものは、繁栄出来る様に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階で、本人には顔馴染みになってもらい家族様にも不安な思いをさせない様に生活出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階で、家族様にも不安な思いをさせない様に生活出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に至るまで、何度も面談、電話にて今必要な事は何かを話し合い対応に持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅時の生活リズムが継続出来る様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、行事などで共に居る時間を大切にしている。 ふとした時には、家族の声を聞いてもらい安堵して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に使用していた物、又は馴染みの店の話をしたり出かけた時には近くを通ったりして対応している。	利用者全員が地元の出身で、ドライブなどで出かける際に、自宅周辺を周回するほか、地域の伝統祭りの見学にも出かけている。家族同伴による医療機関の受診の際に、馴染みの店での外食や買い物をしている。入居時は、友人や親戚の訪問もあったが、近年少なくなってきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独、疎外感を持つ事が無いように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設移動、長期入院が出た場合には相談、提案している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中である程度は把握しているも、ふとした時に又新たな言動、行動、趣味などがでてきて、実践に努められる様に努力した。	日々の生活の中で、利用者の意向を把握し、希望に沿った対応をしている。歌の歌詞に加え、ビデオの提供や見たいテレビ番組のかけ合いによる別室での視聴のほか、デイサービスでの折り紙、貸本による読書、木工作業、散歩などを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの会話、家族様の情報を得それを少しでも生かせる様に支援した。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	短い時間でも利用者との会話づくりに努めた。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、申し送り等で気づきあれば臨機応変し対応、見直しで介護計画に盛り込んで行った。	職員による下書き提案を受け、職員会議で原案を話し合い、電話や手紙を通じて家族の変更希望などを取り入れ、介護計画を作成している。計画作成後については、家族の訪問時の要望や毎月の状況報告に対する申し出を受け、日常生活の中で随時対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌、申し送りノートえお用い確認し実践に繋げた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の思い、希望に先ず耳を傾け本人視点に立って対応した。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、行事参加し楽しみを増やした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医に受診しており、又家族からの相談に応じ病院を変更して対応している。緊急時にはホーム対応。	利用者全員が以前からのかかりつけ医を受診しており、原則、家族同伴とし、家族に医師への連絡表を提供している。医師からの指示書により、投薬や処置を行なっている。協力医は、インフルエンザの予防接種や健康診断をお願いしている。歯科、精神科なども同様である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスに看護師がいるので状態により早期対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に行き状況把握、病院との情報交換を行い早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りは現在していない事を契約時に説明し他の施設の紹介も行っている事を話している。	事業所では、入居時に看取りを行なわないことを説明し、同意を得ている。介護度が高く、特養ホームへの入所希望者には、関連法人の施設を紹介している。重度化した場合は、併設しているデイサービスの看護師の指導や助言を受けるほか、かかりつけ医の指示を受け対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを常に見える所に置き、利用者の一覧が直ぐに解る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	デイサービスと共に年2回避難訓練をしています。水害、災害対策の見直しをした。近隣住民の協力体制に欠けた。	昼間の避難訓練は、年2回デイサービスと共同で実施している。新たに市の指導等を受け、北上川氾濫のハザードマップを施設に掲示し、避難場所と移動方法、時間を確認している。緊急連絡網は、実態に沿った体系とし、近くの職員が参集することとしている。備蓄食品3日分、ストーブ、コンロなどを整備している。	夜間の想定訓練による1人体制での避難誘導、職員の召集訓練の実施と、地域の住民、役員への訓練実施の案内と訓練参加への働きかけを行い、地域と一体となって訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーは秘密厳守。言葉のやり取りでも本人の近くで話す様に努めた。	個人情報、利用者ごとに事務所で管理している。施設内での写真の掲示は、家族の同意を得ている。さらに、今後作成する予定の広報紙への掲載も同様である。トイレ誘導や失敗した際の話しかけなど、他者に分かれないようにそれとなく案内している。家族の訪問記録簿は、今後、カード様式とし、別保管することとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解力に乏しかったり、表現力が出来ない場合は職員が選択しを出したり表情や行動でくみとった。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて見守り声がけにて生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋さんが来て散髪、ひげ剃り声がけし行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理は難しくなって来ているが、皮むき、皮とりなどは行っている。下膳時には運ぶ事が出来ない人には自ら行ってくれている利用者がいる。	調理については、出来る範囲内で皮むきなどの手伝いのほか、下膳は他の利用者の分も行っている方もいる。メニューは職員が作成し、利用者の希望は少ないが、季節の旬の野菜や、行事食、誕生日、郷土料理など工夫をしている。夏の流しそうめん、バレンタインデーのチョコ、花見の仕出弁当などを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量、食時摂取量、体重などの把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後声がけし実施、更に磨き残しのチェック施行。週1回の除菌消毒施行。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いトイレ誘導し排泄が解る人の見守りを行っている。	日中は全員が布パンツとし、夜間はパットやリハビリパンツを6人の方が利用している。排泄介護は、声掛け、見守りを行い、オムツや夜間のポータブルトイレを利用せず、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、運動等の声が行っているが、強い便秘症の方には薬処方にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、時には汚染がひどい時には随時入って頂き清潔保持に努めている。	入浴回数は、週3回から2回に減少したが、入浴時間を多くし、ゆったり、くつろいで入浴することとした。月曜日から土曜日の午前中に行い、1日3~4人入浴している。利用者は、歌を歌ったり、話し込んだりなど、入浴を楽しんでいる。入浴を拒む方はいない。同性介助を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は人によつてばらつきがありますが、起床時にはある程度同じ時間に声掛けをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は目につく所に置き、変更時は申し送りで話し、ノートにも記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今迄していた事は継続出来る様に支援し職員から出来る仕事はお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節事の行事を計画し出かけている。店で食時が難しくなってきたのでホームで弁当を頼み摂取している。	天気の良い日は、近くの牛舎まで散歩するほか、ウッドデッキでの日光浴、カラオケ、夏場のプールでの足湯などを楽しんでいる。外出は年間計画を立て、花見、紅葉、祭り見学を実施している。家族による受診の際の食事、買い物なども行なっている。そのほか、希望者の庭の散歩は午後実施している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からおこずかいを預かり管理している。自分から何かを買いたいと話される方は今の所いない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から、電話の希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内にソファが東、西に置いてあるので、各自好きな所でくつろいでいます。	南向きの明るい広々としたロビーに、食事用テーブルとソファ、東側の廊下にもソファが設置され、それぞれ思いの場所でくつろいでいる。量の部屋には、予備のテレビが設置されている。温度や空調は、エアコン、加湿器で管理され、季節の飾りや利用者の作品、活動写真、職員による利用者の似顔絵、切絵などが掲示され、快適で暮らしやすい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間を作りたい時には、和室、廊下などに置いてある椅子を利用してくつろいだり、会話を楽しんだりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、新しい物では無く極力馴染みの物を持って来て頂いている。居室も各自アレンジして使用している。	ベッド、布団、クローゼット、エアコン、加湿器、テレビ端子が備え付けで、持ち込みは、テレビ、イス、チェスト、仏具、家族写真などで、ベッドの設置場所などは、利用者それぞれの意向に沿った配置となっており、居心地良い居室となっている。ふらつき、転倒予防のため、2名にセンサーマットを使用し安全を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は広くセッティングし不要な物は廃除し自由に歩行して頂いている。		